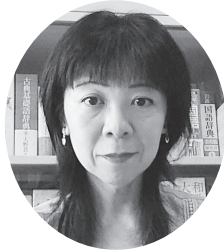


# 琉球大学学術リポジトリ

## 巻頭言

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2022-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩野, 敦子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017949">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017949</a>



## 『んじたち』第6号 巻頭言

教育学研究科長 萩野敦子

本誌を手にする教職大学院の院生の皆さんには「釈迦に念仏」でしょうが、約1年前の2021（令和3）年1月26日に発出された中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築をめざして～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」に言及したいと思います。本答申は【本文】92ページ、【概要】として示されたスライド資料（スライドといっても文字がびっしり）すら9ページもあるという、極めて厚いものです。問題点が全くない完全無欠な内容だと持ち上げるつもりはありませんが、Society5.0と呼ばれる新たな、未知なる社会に生きる子供たちに責任をもつ学校教育の在り方を示す、重要なメッセージであることには間違いありません。

本答申のねらいは「急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成すること」（本文3ページ参照）に尽きるでしょう。教育に携わる者としてはフレーズの一つ一つを胸に刻んでおきたい一文ですが、同時にこれは、「一人一人の児童生徒が」という主語を「一人一人の教師が」に置き換えても、何ら違和感のないものだと思います。ためしに置き換えて、若干「教師」を意識した文言の修正や加筆を試みたところ、次のような文章ができあがりました。

「急激に変化する時代の中で、一人一人の教師が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる同僚の教師と子供たちを価値のある存在として尊重し、多様な教師たちおよび子供たちと協働しながら学校教育をめぐる様々な変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、教職を通して自身が持続可能な社会の創り手となり、またその創り手を育てることができるよう、学び続ける教師であること」——これはまさに、私が教職大学院で学ぶ、あるいは学び終えた皆さんに、期待したいと思っていることなのです。

『んじたち』やホームカミングデー、各種発表会等に接すると、教職大学院に学ぶ皆さんにはそれぞれの「よさ」や「可能性」があることを、つくづく実感します。そして、個性的で多様な構成員（もちろん大学教員も含む）が互いを尊重し合いながら協働していくことで、沖縄の学校教育が歴史的・環境的に抱える課題や時代に要請された新たな課題に対しても、それを乗り越えるパワーを生み出していけるのではないかと、信じています。

そして何より皆さんが、学び続けることを通して、「豊かな人生」——学校教育に携わる者として豊かな教師人生であることはもちろん、この難しい世に生きる一人の人間としても——を実現されるよう、心からエールを送りたいと思います。